

2018年度第3回新潟競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 瓢湖特別

瓢湖（ひょうこ）は、新潟県阿賀野市にある人造湖。白鳥の渡来地として有名で、11月下旬のピーク時には5000羽を超える白鳥が飛来するため、国の天然記念物やラムサール条約登録湿地に指定されている。

○ 妙高特別

妙高（みょうこう）は、新潟県南西部の市。日本有数の豪雪地帯として知られる。また、新潟県南西部にある成層火山。標高2,454m。越後富士とも呼ばれ、妙高戸隠連山国立公園に含まれる。東麓に広がる妙高高原には、温泉やスキー場などが点在し、リゾート地として賑わう。

○ 稲光特別

稲光（いなびかり）は、稲妻のこと。古来より、電光が稲を突かせると考えられていたことから、「稲」という言葉が使われているという説がある。本競走は、直線1000mのコースを稲光のように一瞬で駆け抜ける競走馬をイメージして名付けられた。

<第2日>

○ 粟島特別

粟島（あわしま）は、新潟県北部にある島。周囲約23km。手付かずの自然が多く残り、自然散策やバードウォッチングが盛ん。また、水産資源にも富んでおり、ブリ・タイ・サザエなどが水揚げされる。

○ 信越ステークス

信越（しんえつ）は、現在の長野県および新潟県の総称。名は信濃国と越後国にちなんでいる。

○ 寺泊特別

寺泊（てらどまり）は、新潟県長岡市の地名。古くは北陸街道の宿場町として栄えた。現在、「魚のアメ横」と呼ばれる市場通りには、海産物店が軒を連ね、観光客で賑わいを見せている。

＜第3日＞

○ 萬代橋特別

萬代橋（ばんだいばし）は、新潟市の中心部を流れる信濃川に架かるコンクリート橋。全長 306.9m。古くから新潟市の象徴とされてきた。明治 19 年に最初の本橋が開通し、現在の橋は昭和 4 年に完成した 3 代目。平成 16 年に国の重要文化財に指定された。

○ 飛翼特別

飛翼（ひよく）は、互いの翼を並べて天高く舞う鳥の様子のこと。本競走は、直線 1000 m のコースでスピードを競い合い、互いに鼻を並べてゴールインする競走馬をイメージして名付けられた。

○ 鳥屋野特別

鳥屋野（とやの）は、新潟市中央区の地名。同地にある鳥屋野潟は、コハクチョウを中心に約 3000 羽の白鳥がシベリアから飛来する。周辺には、桜並木の美しい県立鳥屋野潟公園などがある。

＜第4日＞

○ 浦佐特別

浦佐（うらさ）は、新潟県南魚沼市の地名。一帯は上越の深雪地帯で、数多くのスキー場が点在している。

○ 北陸ステークス

北陸（ほくりく）は、中部地方の日本海側の地域のこと。名は、五畿七道のひとつである北陸道に由来する。

○ 十日町特別

十日町（とおかまち）は、新潟県南部の市。冬は 2m もの積雪があり、「特別豪雪地帯」に指定されている。市内を南北に流れる信濃川と十日町盆地によって、雄大な河岸段丘が形成されている。

<第5日>

○ 岩船特別

岩船（いわふね）は、新潟県北部の郡。その地名は日本書紀にも記されており、7世紀頃の大和政権はこの地に「磐舟柵」を設置し、蝦夷対策の前線拠点とした。また、県下魚沼郡と並ぶ新潟米の産地としても知られる。

○ 魚沼特別

魚沼（うおぬま）は、新潟県南東部の市。福島県と群馬県の県境に位置する。コシヒカリの産地としても有名。冬は3mもの積雪があり、「特別豪雪地帯」に指定されている。

○ 飛翔特別

飛翔（ひしょう）は、空中を飛び翔けること。本競走は、空中を飛ぶようなスピード感あふれる競走馬をイメージして名付けられた。

<第6日>

○ 松浜特別

松浜（まつはま）は、新潟競馬場に近い漁港の町。川の水と海水が混じり合う沖合には、貝類が多く生息している。

○ ルミエールオータムダッシュ

ルミエール（Lumiere）は、フランス語で「光」という意味を持つ言葉。本競走は、直線1000mのコースを光の如く駆け抜ける競走馬をイメージして名付けられた。

○ 柏崎特別

柏崎（かしわざき）は、新潟県中部の市。古来より北国往来の要衝で、人々の往来や文化の伝播、物資の移動が活発に行われてきた。海水浴場が点在しており、夏には多くの人々で賑わう。